

環境経済論

担当者 鎌苅 宏司

開講時期 前期 単 位 2

●講義の概要

持続可能な開発目標（SDGs）という考え方が世界の潮流になり、1930年代の地球温暖化の発見から100年を経ずして温室効果ガスの排出削減による低炭素社会の実現に向けて世界の国々が大きく舵を切り始めました。

この講義では、テキストに従い具体的な環境問題とその対策を紹介しつつ、ミクロ経済学を用いて市場メカニズムのもとの環境政策と環境制約の下でのマクロ経済政策を解説します。

●講義の到達目標

環境問題に関する基礎的な知識を理解し、それを説明することができる。

ミクロ経済学およびマクロ経済学を用いて自然環境との調和を図る持続可能な経済発展ともたらず環境政策のあり方を理解し、それを説明することができる。

●講義計画

1. 地球温暖化問題の系譜
2. ミクロ経済学の考え方
3. グッズの世界とバズの世界
4. 動脈産業と静脈産業
5. バズとゼロエミッション
6. 安定した市場リサイクルの条件
7. 逆選択とパートナーシップ
8. Polluter Payment Principle (PPP：汚染者支払い原則)と費用問題
9. 環境保全とトレードオフ
10. バズのマクロ経済学
11. 環境制約と経済成長
12. バズの管理システム
13. グリーンニューディール政策
14. ソデイとジョージesk=レーゲンの思想と貢献
15. ハーマン・デイリーの定常社会

●成績評価基準と方法

成績評価の基準は、定期試験（レポート試験）100%です。

成績評価の方法は、次の二点です。

1. 基礎的な環境問題を理解し、説明することができるか。
2. ミクロ経済学およびマクロ経済学を用いて、自然環境との調和を図る持続可能な経済発展ともたらず環境政策のあり方を理解し、それを説明することができるか。

●テキスト又は参考文献

テキスト

細田衛士『グッズとバズの経済学循環型社会の基本原則 [第2版]』東洋経済新報社、2012年

参考文献

ハーマン・デイリー／ジョシュア・ファーレイ『エコロジー経済学 原理と応用』NTT出版、2014年

ハーマン・デイリー『持続可能な発展の経済学』みすず書房、2005年

鎌苅宏司・村田安雄『最適課税と環境税の経済分析』中央経済社、2005年。

●受講上の留意点

環境経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の考え方や分析手法を必要とするため、学部レベルの知識を前提としていますが、初学者にも適宜対応しますので、履修時にその旨を申し出てください。

常に環境問題の解決に向けてのアイデアを考える学びの姿勢を養ってください。